こくろう秋田

国鉄労働組合
秋田地方本部
（秋田市中通
７－２－21）
018-832－3775
発行責任者
瀬下　一司
編集責任者
佐藤　浩一

解雇反対、生活改善訴え行進

第80回秋田県中央メーデー

第80回秋田県中央メーデーは4月29日八橋陸上競技場（連合秋田主体）、5月1日アゴラ広場（秋田県労連主体）でそれぞれ開催。国労は両メーデーに参加し、厳しくなる一方の労働者環境や生活不安払拭等を訴え行進した。

連合秋田主体の第80回秋田県中央メーデーが4月29日に八橋陸上競技場で開催された。当日は快晴の中、9時半に正門ゲート前に地本の旗を立て「鉄道安全デー」の本部チラシ配布のため地本組合員10名の動員者を待っていたら、一番が元秋田連合分会の加藤氏（現・東京駅）で「小坂分会長に誘われて」と。この後、次々に11名が集合しチラシ配布行動を展開。昨年は旧日赤病院跡地での開催であったのでメーデー参加者以外の通行人も多かったが、皆さん元気な声で「おはようございます。国労です」と、それでも九百枚を配布し終えた。JR他労組組合員も多く参加していたが躊躇なくチラシを受け取り、約一時間で終了し会場のスタンドへと入場した。

いつもの一番端に陣取り、実行委員長の挨拶、来賓挨拶、メーデー宣言採択後デモ行進。いつもは一番最後の出発で二時間近くかかりやっと千秋公園にたどり着くのに、今年は北コースの一番最初。地本組合旗の旗手には小坂秋田駅連合分会長、石川部品科副分会長、加藤氏に担ってもらい、時折強風が吹く中、一時間で到着した。予定より早く到着しので「迎賓館」でちょっとの食事をした数人の組合員も見られた。

例年、東労組のチラシ配布と国鉄闘争の「4者4団体の闘争方針に反対するグループ」と競合するメーデーチラシ配布行動だが今回は圧倒的に国労秋田地本が優った行動となった。

分裂メーデーが始まって30年近くになるができるなら労働者階級の闘いの歴史ある5月1日に、全世界的なメーデー祭典と一緒に統一した団結の力で集会を開催して欲しいと考えた一日であった。〔文責・W〕

秋田県中央メーデー（県労連主体）で行進する組合員

県労連メーデーで最賃引上げ等を訴え

天気は良いものの、時折強い風の吹く5月1日、第80回秋田県中央メーデーがアゴラ広場で開催された。主催者発表で43団体、五百人が参加し、国労からは退職者の会を含め20名を超える組合員が参加した。

議長団には国労秋田地本の瀬下委員長をはじめ3名の方が選出され、はじめに佐々木実行委員長（県労連議長）から、派遣切り、雇い止め、解雇が続く中で労働者の反撃が始まっていることが強調され、雇用・生活を守る闘いの強化が呼びかけられた。鈴木共産党県民生活対策室長から情勢報告があり、メーデースローガン採択、アトラクション、そして県国公共闘会議をはじめ3団体から闘いの報告があり、最後に「最低賃金」の大幅引き上げを目指す決議とメーデー宣言が採択され、団結ガンバローで集会を締めくくった。その後デモにうつり、シュプレヒコールを上げながら広小路から中央通りを一周し、市民にアピールした。

今年も地域間異動のときに所属した上野駅分会の腕章をした総合車両センター支部の組合員の姿も見られ、これからも名物になりそうだ。

公園で交流会

第2部は場所を千秋公園に移し、恒例の交流会が開催された。メーデー参加者だけでなく毎年楽しみにしている組合員家族、退職者も加わり約40名が参加した。

今年は貨物分会の準備部隊が、場所取りをはじめ飲み物から料理まで何不自由なく準備してくれてた。途中、国際教養大学の学生との交流もあり、職場の話や世間話で大いに盛り上がり、今後の国労運動の活力になった。〔文責・S〕

千秋公園・動物園跡地で晴天下の中談笑しあいながら懇親を深める参加者

お知らせ

長年務めていただいた渡辺敏男、今野純子両書記が4月末で退職し、新たに大和田書記が配属された。

渡辺、今野両書記の多大なご苦労に深く感謝申し上げます。